

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：アートとコミュニケーションデザイン ILAS Seminar :Art and Communication Design			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 特定准教授 蓮 行 経営管理大学院 特定助教 末長 英里子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	1共21			使用言語	日本語
キーワード	デザイン学関連 / コミュニケーションデザイン / アート / コミュニケーション / 演劇						
[授業の概要・目的]							
不確実性が高く将来の予測が困難な現代社会においては、個人およびあらゆる規模の組織が、学び続け、変革し続けることが求められている。しかもそれは、高度に社会化された現代では「他者との協働」によって行われなくてはならない。そして、「他者」は多様化しており、「多様性の理解」も極めて重要である。 そんな時代に「アート」が注目を集めている。アートには、「ゼロから何かを作り出す」や「価値の評価が困難（役に立つのか立たないのかわからない）」といった性質がある。これを、社会のあらゆるシーンで活用しようとする世界的な潮流がある。一方で、「役に立つのか立たないのかわからない」という性質を持つ「アート」を社会化する（何かの役に立つようにする）ためには、デザインが必要でもある。デザインという幅広い領域の中で、他者との協働を志向する上では、とりわけ「コミュニケーションデザイン」が重要である。 アートといっても、美術、工芸、音楽、映像、身体表現芸術など、多種多様なジャンルがある。この授業では、担当者の専門領域である身体表現芸術を中心としつつ、ゲスト講師を招聘して多様なジャンルのアートを体験してもらう予定である。アートを媒介とした他者との協働を実際に体験してもらい、省察と議論を通じて、その方法を学んでいく。アートを介すると自分や他者がどんな反応をするのか、コミュニケーションデザインとはどのようなアプローチか、アートをビジネス等のシーンにどう活かせるのか。このような問いについて、体感しながら議論してもらう。 当講義はゲスト講師が担当する回がある可能性があります。							
[到達目標]							
(1) アートを媒介した他者との協働を実際に体験し、その特性を理解する。知識として理解するのみでなく、具体的な状況における自らの体験に即して理解する。 (2) グループで「学び続け、変革し続ける組織」をつくるためのデザインを考案・実践することを通じて、アートとコミュニケーションデザインの基本的な方法を実践的に習得する。							
[授業計画と内容]							
授業計画と内容は、学習者が能動的に活動し、課題の探索、発見、解決を試みるPBL/FBL型(問題発見型/問題解決型)で進行するものとし、以下を予定している。ただし、受講生の様子を踏まえ、必要に応じて動的に計画を見直しながら授業を進める。なお、外部との交流の機会を設定する可能性もある。 第1回/第2回/第3回 導入、チームビルディング 第4回/第5回/第6回 アートを媒介とした協働活動のアクティビティ体験とデザインの解説 第7回/第8回/第9回 グループワーク：小作品の創作と発表及びディスカッション 第10回/第11回 アートを媒介とした協働活動のアクティビティ体験とデザインの解説 第12回/第13回/第14回 グループワーク：「学び続け、変革し続ける組織」のためのデザイン実 ILASセミナー：アートとコミュニケーションデザイン(2)へ続く！！！！							

